第３期長崎広域連携中枢都市圏ビジョン（素案）に関するパブリック・コメント【回答】

No.	意見の内容	長崎市の考え方
1	少子高齢化と人口減少が一段と進むなか、長崎市と西彼杵郡（時津町・長与町）について、連携の深化に加えて、自治体の枠組みそのものを見直す選択肢としての合併可能性を、改めて客観的に再検討していただきたく意見を申し上げます。 まず、人口減少局面では、行政サービスの需要構造が「量が減る」のではなく「内容が重くなる」方向に変化します。医療・介護・見守り・移動支援など、高齢化で伸びる需要は、職員体制や施設、委託費といった固定費を伴い、人口規模が縮小すると一人当たり負担が上がりやすい性質を持ちます。一方で、生活圏はすでに行政界を越えて一体化しており、通勤通学、買い物、医療受診、公共交通の利用、道路混雑、災害時の避難動線などは、長崎市と時津町・長与町を横断して成立しています。実態として一つの都市圏である以上、政策決定単位も実態に近づけたほうが、合理性が高くなります。 次に、自治体が分かれていることで生じる非効率は、目に見えにくいところで積み上がります。たとえば、同種の業務をそれぞれが別の体制で維持し、同じ領域のシステムや契約、窓口運用、手続き設計、業者調達を別々に行う構造は、人口減局面では固定費の二重化になりやすいです。合併の効果は、単なる「職員削減」ではなく、重複の解消によって、企画・福祉・防災・DX・インフラ更新など、将来負担を左右する領域へ人的資源を振り向けられる点にあります。特に、基幹系システム更新やデータ連携、調達の標準化、文書・契約事務の集約は、規模の利益が出やすく、長期的に持続可能性へ寄与します。 さらに、都市計画・交通・教育・医療・産業政策は、分割統治よりも一体設計のほうが成果が出やすい領域です。人口が減ると、学校配置、公共交通の維持、道路や上下水道の更新計画、消防救急の配置など、どれも「薄く広く」では支えきれなくなります。合併により、圏域内での施設・路線・投資の優先順位を一本化	ご提案の内容は、今後の人口減少を踏まえ効率的な行政運営を図るため、長崎市・長与町・時津町による市町村合併を検討してはどうか、というご意見かと思います。 行政の効率化や持続可能性という観点では、ひとつの方法として考えられます。実際、長与町及び時津町とは、平成の大合併の際に、近隣市町村も含め、合併協議会を設置し、協議を行ってきた経過がございます。その際に検討した結果、2町との合併には至っておらず、結果的に長崎市は平成 17～18 年に旧 7 町（香焼町、伊王島町、高島町、野母崎町、外海町、三和町、琴海町）と合併しました。 また、市町村合併については、何より住民の理解が前提となってまいりますが、現在、合併等に向けた住民の声や、機運は確認しておらず、これを再度検討する段階ではないと考えております。 一方で、この広域連携の取組みは市町村の独自性を担保しながら、地域の実情に応じた柔軟な連携を図ることで、行政サービスの効率化や利便性向上を図るものであることから、今後とも１市２町で連携しながら、効率的な取組みについて協議・検討していきたいと考えています。

	し、限られた予算を最適配分する意思決定がしやすくなります。これは「住民サービスを均す」という意味ではなく、「同じ生活圏のなかで生活者の不便を最小化する」ための合理化です。災害対応や BCP の観点でも、指揮系統、避難所運営、支援物資の配分、情報発信の一本化は、平時以上に差が出ます。 もちろん、合併には懸念もあります。税負担やサービス水準の変化、地域コミュニティの心理的距離、議会での代表性、旧町域の声が埋もれる不安、合併コストや制度移行に伴う混乱など、現実的な論点が存在します。だからこそ私は、結論ありきではなく、まず「再検討」をお願いしています。必要なのは、感情論ではなく、複数シナリオの比較です。現状維持、連携強化（共同処理・一部事務組合の拡充等）、合併（複数の形態）を並べ、財政影響、職員体制、投資計画、住民利便、災害対応、地域交通、子育て施策、医療アクセスなどを、同一指標で評価して公開することが合理的です。短期的な費用だけでなく、施設更新と人口動態を織り込んだ中長期の収支シミュレーションを置くことで、議論は建設的になります。 つきましては、長崎市として時津町・長与町と協議し、合併可能性も含めた広域行政の再設計について、第三者性のある検討体制を設け、論点とデータを住民が理解できる形で提示していただきたいです。その上で、旧町域の窓口機能や地域自治の仕組みをどう担保するか、段階的統合の手順をどうするかといった「不安を制度で解消する設計」まで含めて、選択肢として提示していただくことを要望いたします。 人口減少は、先送りするほど選択肢が狭まります。生活圏の実態に即した行政単位を再考することは、住み続けられる地域を残すための、現実的で合理的な議論だと考えます。ご検討のほど、何卒よろしくお願い申し上げます。	